

えほん de はっぴい

—ブックスタート事業—

赤ちゃんが一番喜ぶのは、お母さんやお父さん、そして家族の温かいスキンシップです。

赤ちゃんは、生まれたときから家族が語りかけてくれる言葉や人とふれあった経験を吸収しています。それは親子の絆を一層深め、赤ちゃんの心に「幸福感」「信頼感」「愛されている喜び」を育みます。

0歳から絵本を使ってたっぴりと語りかけることで、赤ちゃんの豊かな言葉や聞く力、健やかな心を養うことができます。

また、そのひとときは、周りの大人にも心安らく楽しい時間となることでしょう。

ぜひ、絵本を通して、赤ちゃんと時間を共有することの楽しさ、大切さを感じてください。

ブックスタート事業について

ブックスタートは1992年にイギリスではじまった取り組みで、現在、日本全国に広がっています。

相模原市では、「えほん de はっぴい」という愛称で、絵本の読み聞かせとプレゼントを行っています。会場には子育てサポーターや子育て広場のスタッフもあり、あなたの子育てを地域で応援しています。困ったときは誰かに頼ってくださいね。

読み聞かせのポイント

絵本の読み聞かせは、早期教育や押し付けであってはいけません。

あくまでも親子のコミュニケーションの手段として絵本を楽しんでください。

0歳から1歳半ぐらいまでは、色彩が鮮やかで美しい絵本、言葉かけのヒントとなるような絵本、童謡絵本、繰り返し音がありテンポがよいもの、身近にある食べ物や、犬などの生き物の絵がある絵本などが適当と思われます。赤ちゃんの発達には個人差があるので、今は興味を示さないこともあります。赤ちゃんの関心を見ながらゆっくり進めてください。

★ 読み方の決まりごとはありません。自由に楽しく読んであげてください。

舐めたり、かじったり、読んでる途中でパラパラめくったり...

まずは、お子さんの好きなように！

★ 赤ちゃんをしっかり抱っこするか向き合って、ごく近い距離で読むのがオススメです。